

2002 年 EAST JAPAN 総括コメント

予選審査員：ナカオシュンスケ

[予選 Judge の役割について]

今まで予選 Judge というものは、本選に出場できる人を決めるという順位評価者としての役割のみが期待されていて、自分が Judging した Speech に対して、本選までにどのようなリライトをすれば良いのかというアドバイスを与える教育者としての役割がほとんどありませんでした。予選 Judge は数行のコメントを Judging Sheet に書くのみで、その Speech をどの様に評価したかは闇に隠れているだけだったのです。多くの ESS では学内のエリミネーションの後は、ブレインストーミングもフローバッティングも大々的に行われることはほとんどなく、リライトをどうするかは各 Speaker に委ねられています。それが故に、Speaker が初めて自分達の考えを批評されるのが本大会なのです。しかし、よく考えてみてください。本大会で Judge からコメントをもらえるのはすでに大会終了後。その後、既発表可の大会に出る場合もあるでしょうが、多くの Speech が大して改良もされずにその瞬間に命尽きてしまうのです。

Speech のレベルの低下が叫ばれるようになってから久しくなりました。しかし、それではどのようにしたらレベルの向上に局面を移せるのかは、「レベルが低くて困る」と嘆いている当の Judge 自身からも具体的な策は一切出てこなかったのです。そこで今回 East Japan の予選 Judge を引き受けさせていただきました。中には少々ストレートな表現や誤解があったかもしれません、すべては皆さんより良い Speech を発表できるにはどうしたら良いのか、私なりに色々悩んで書いたコメントです。どうか御了承下さい。そして、納得できる点がありましたらリライトの参考にしてください。

[Speech とは何なのか？]

皆さんの中には、まだ Speech が何なのか、Speech の魅力とは何なのかという事を自分の中ではっきりと理解している人があまり多くないのではないかと感じました。Speech は自分の言葉で、自分の個性や自分の考えを表明し、多くの人に感動や共感を与えるものだと思っています。今回の Speech を書くにあたって、みなさんは自分の考えや個性を自分の言葉で表すことができましたか。

全部で 22 通もの Speech を今回 Judging させていただきました。その中のほとんどの Speech が残念ながら、何をやりたいのか、何を変えたいのかが全く見えない Speech ばかり

りでした。「政府はこうこうこういう規制を作るべきだ」とか「この点についての詳細を理解しましょう」などといふ一文で自分の考えを代弁させようとするものが多くありました。そんな一文に自分の考えや自分の言葉を盛り込むことができるでしょうか。私は絶対にできないと思います。そしてできないのだとしたら、それは Speech ではなくて、誰が書いても同じような結論になる大学の楽勝科目的レポートみたいなものに過ぎないのだと思います。

具体例を挙げさせてください（ちなみに今回の East の Speech ではないのでご安心を）「日本の社会科教育というものは縦割りで、日本史・世界史・地理・政経が別々に教えられている。しかし、現実の社会や経済は複雑化しており、別々にぶつ切りの知識を与えられても社会問題の分析能力を向上させることはできない。そこで私は提案します。まず第1に社会の総合教育が必要だと思います。文部省は中学や高校の社会の授業をそれぞれ別々に教えるのではなくて、総合社会として教えさせるべきです。おわり。」

私はこの Speech を聞いたときに、非常に面白い Topic を選んだなと感じたと同時に、選ぶまでは良かったけれど、そこから先は何も考えてこなかったのだなという失望を感じました。皆さんはこの内容をどう思いますか。こんなことは誰だって言えることだと思いますか。こんな一文は中学生、下手したら小学生にだって語ることができます。彼が考える「総合社会」というのはどんなものなのか全く見えないので。私達がほんとうに聞きたいのは、「例えば第2次世界大戦前後の歴史は、日本史と政経と世界史をこの様に組み合わせて教えると面白い。こういう視点を持てば他にも社会を分析する上で役に立つことがたくさんある。例えば・・・」などといった Speaker 自身が考える具体的なプランです。そして、そこにこそ Speaker の個性や考えが生きてきて、Speaker の言葉がにじみ出てくるのです。もう一度みなさんの Speech を読み返してみてください。そこには具体的な考え方やプランがありますか。あなただけの言葉で書かれた Speech がありますか。

[PHCS をなぜ採用するのか？]

みなさんは KUEL や ESS のテキストで PHCS フォーマットというのを勉強したことがあると思います。逆に言うとそれらのテキストには PHCS 以上の内容というものはほとんど書かれていません。ですから結果的に多くの人が PHCS フォーマットを自分の Speech に適用します。私がかつて所属していた慶應大学の ESS では、私が4年生になったときから「PHCS を安易に採用するのは絶対にやめろ」と口を酸っぱくして語っていました。PHCS をやめさせるために何本もテキストを書きました。しかし、その KESS ですら大方の人間が PHCS フォーマットを利用して Speech を書きます。なぜでしょうか。

それは、誤解を恐れずに言えば、PHCS フォーマットを利用すれば馬鹿でも Speech が書けるようになるからです。PHCS はフォームであって、自分の考え方によって有機的に変化するものではありません。自分の考え方を伝えるにはどの様な展開で聴衆に伝えれば良いのかということを熟考する必要はなく、ただ単に器に文章を盛るだけです。考えなくて

良いから皆が PHCS フォーマットを採用します。本当は教育者であるべき上級生ですら、想像力が欠如しているせいか、PHCS フォーマットで下級生にフローを書かせてフローバッシングを行ったりしています。これこそまさに悪循環です。

なぜ安易に PHCS を採用するべきではないのでしょうか。それは、PHCS を採用したというだけで、Speech から Originality が消えてしまうからです。なぜなら先が読めるからです。PHCS フォーマットを採用している Speech は、イントロが終わった時点でその後がどんな展開になるのか読めてしまいます。ボクシングで言えば、「最初は右ジャブ（イントロ）で来たか。次は左ジャブ（Problem）で、ストレート（Harm）が来るかな。最後はフック（Cause）とアッパー（Solution）で来るだろう。ワンパターンな奴だ。だったら俺はそこで奴が空振りしたところに、強烈なストレートを打ち込んでやろう」といった具合です。本当に次の一手が面白いほど読めるので、全部空振りに終わった挙句に「落第」という強烈なストレートを Judge から貰うことになるのです。ここまで芸がないと楽しみがありません。

PHCS にはもう 1 つの弊害があります。それはもっとも肝心な S が最後に来るということです。みなさんは得てして P や H などに多くの行数を割きます。私からすれば、「そんなことは誰でも知っているからダラダラ説明しないでくれ」と思うのですが、序盤は力が有り余っているせいか一生懸命書いてしまいます。そしていざ S を書こうとすると、原稿の余白がほとんどないのです。皆さんの中には無意識的に、「せっかく書いたものは消さたくない」という意識が働きますから、なんとかして S を小さなスペースに押し込もうとします。その結果が、[Speech とは何なのか?] の項で述べた、「一文で片付けてしまう自分の平板な考え方」に行きついてしまうのです。

こう考えると、安易に PHCS を選択することは Speech にとって重大な副作用があることがわかるのではないでしょうか。もう一度 PHCS について考えてみてください。それでもあなたは安易に PHCS を採用しますか。

[Discussion ぽい Speech]

皆さんのが所属している多くの ESS には Discussion セクションがあるはずです。私が所属していた慶應大学の ESS にも Discussion セクションがあり、多くの学生が関西遠征などに向けて日々努力していました。

ところで、皆さんの中にはこんな台詞を聞いたことがある人はいませんか。

「Speech の魅力は Discussion も Debate も Drama もすべて出来ることなんだよ。」

果たしてそうでしょうか。Speech の魅力はそのように他の 3 つのセクションの活動の魅力に従属する形でしか定義できないものなのでしょうか。そうではないと思います。Speech の魅力とは、「自分の考えや個性を、自分なりの言葉や展開で聴衆に伝えることができる」ところにあると思います。そう考えると、上のようなお決まりな台詞を吐きながら下級生を勧誘する人は Speech に関してはズブの素人ということになります。

上級生本人がわかっていないだけなら害はそこまでなのですが、そう言われて勧誘されて Speech をやるようになった多くの学生が、「Discussion ぽい Speech」をやる傾向が見られるのです。私の中では「Discussion ぽい Speech」とは次のような Speech を言います。それはすなわち、「PHCS のようなフォームに当てはめやすくて、巧妙なレトリックなどはほとんどない。最後は”Japanese government should”というお決まりの解決策で締めくくられ、それにかかる予算はゼロ」というものです。

別に私は Discussion を批判するつもりは毛頭ありません。むしろ私は Discussion の形式を安易に Speech に持ちこみ、自分で色々と考えることなく聴衆の前で発表を行う身内である Speech Section の人間に辟易としているのです。

今日も TV を見ていると次のようなニュースが流れています(一部脚色してありますので御注意を)。「サッカー日本代表の高原選手の病気の原因は『エコノミークラス症候群』である。それは身边に潜んでいる恐ろしい病気である。エコノミークラスのような狭い空間で長時間足を動かさないでいると足で血液が粘性度を高め、固まった状態で肺に到達し重大な疾患を引き起こすのだ。この病気は長時間フライトが可能になった 80 年代から継続的に増えつづけている。こうした病気に巻き込まれないためにも、2 時間おきにはフライト中に足をマッサージしなくてはならない。また、競争激化とはいえ、政府の航空専門部会はエコノミークラスの座席間隔に対して意見を表明すべきだ。」

こういうニュースを聞いてそのまま飛びつく人が必ずいます。ニュースそのものが PHCS に当てはめやすくなっていますし、政府が実行力を発揮できるなんて好都合だからです。「おまけにこれは珍しくて聞いたこともないような話じゃないか。Originality も高いから絶対これで行こう」ということになるのです。

しかし私がアドバイスするとしたらこういう Topic は敬遠したほうが無難です。さっきから何回も言っているとおり、Originality とは「自分の考えをいかに具体的に、他の人が思いもしなかった発想で伝えるか」であり、話自体の物珍しさではないのです。はたして、この Topic の中に誰も想像できないような自分なりの考え方や提案を組み込むことができるでしょうか。多分できないと思います。この Speech を PHCS フォームで発表するしたら、イントロからエンディングまで、聞く前にすべての展開が読めてしまいます。「2 時間足を動かせとか、政府はなんたらかんたら」というのは、誰にだって想像できる話です。自分のアイデアを盛り込むことができないのであれば、そういう Topic は採用しないようにしましょう。

[最後に]

これまで好き放題述べさせていただいて申し訳ありませんが、実は私自身も3年生の前期までバリバリのPHCS信奉者だったのです。慶應大学のESSではPHCSが連呼され、僕はそれまでの2年半、ずっとPHCSがSpeechの大部分と考えていました。ですから、みんながよくやるような、「それはガンで死ぬ人よりも多いのです」という台詞をHarmに込めたり、「どんなに小さな事でもいいからやりましょう。それが肝心です」というおきまりの文句をSolutionで述べたりしていました。Solutionはろくに考えもしなかったので数行で終わるものを3つくらい述べていて、具体的にはどんなことをやるべきかという自分の考えを表明したことはありませんでした。そして、自分の考えの浅さを悟られたくないために、「あなたは自分には関係ないと思っているかもしれません、次の犠牲者はあなたかもしれませんよ」という脅し文句で締めくくっていたのです。

3年の後期になってようやくPHCSの弊害に気づくと同時に、自分らしいSpeechをするにはどうしたら良いのかという事を考え出しました。考えた結果、そこそこの成績を3年最後のシーズンに残すことができましたが、もっと早くから意識的に自分らしいSpeechを作るよう心がけていたら良かったなど後悔の念にかられるばかりです。

大学を卒業してから、壇上に立ってSpeechをする機会は全くなくなりました。しかし、学生時代のとき以上にSpeechのアイデアは次から次へと沸いてきて、「もう一度壇上に立ちたい！」と夢にまで思っています。ですからまだ後期のシーズンを残している皆さんを非常に羨ましく思います。皆さんの中には「よくこんなに文句が言えるな」と思った方もたくさんいると思いますが、それは皆さんに対する期待であると共に、これからまさに壇上に立とうとしている皆さんに対する嫉妬もあるのです。まずはEast Japan、そして後期に向けて頑張ってください。応援しています。

Your time has come to shine on the stage.

長々とありがとうございました。